

- ・ Aさんは現在、同性のBさんと交際しているが、周囲にはその事実を告げていない。周囲は仲の良い友達同士だとみているようである。
- ・ Aさんは1年ほど前から、母親から「彼氏はいないのか?」「Bさんと仲が良すぎるのも考えものだ」などと言われるようになった。Aさんはその度につらい思いをしており、また、「母親は、自分の性的指向や性自認に気づいているかもしれない」、「もし自分の性的指向や性自認を知ったら、家族はどう思うだろう」と心配することも多くなってきた。
- ・ また、Bさんも家庭内で似たように状況にあり、家族との関係でしんどい思いをしている。
- ・ このままでは状況が改善しないため、最近では双方が実家を出て一緒に暮らしたいと考えているが、家族に性的指向や性自認が知られれば反対されたり、勘当されたりするかもしれないと思うと、夜も眠れず、食欲も無くなるなど、精神的に非常にしんどい状態である。

■対応

- ・ 相談員が過去にも性的指向や性自認に関わる相談に携わったことを伝え、相談員が理解者であることをAさんに分かってもらうことで、安心してもらえるよう配慮した。
- ・ その上で、Aさんが置かれている状況等について時間をかけて傾聴し、そのなかで具体的な課題や自身の希望などを、丁寧にヒアリングして確認した。
- ・ 行政が積極的に取り組んでいる性的マイノリティに関する制度等（パートナーシップ宣誓制度、人権相談ダイヤル、市営住宅の入居規定の変更、公立病院での手術時の同意書の扱い等）について説明し、情報を提供した。
- ・ 性的マイノリティの課題に取り組む団体等について紹介し、当事者の立場から対応してくれるであろうこと、情報提供やアドバイスがあるかもしれないことなどを助言した。

■評価および今後の課題

- ・ 相談を通じてAさんに異なる視点や別の考え方を提示したことで、Aさんが行動していくための力を伸ばし、エンパワメントすることができた。
- ・ 相談をきっかけに、Aさん自身が性的マイノリティの課題に取り組む団体に連絡して情報提供やアドバイスを受けたり、イベントやセミナーなどに参加したりするなど、自身で積極的に行動するようになったことで、以前ほど不安を感じたり悩んだりしなくなった。
- ・ 性的マイノリティについては、制度等の整備が不十分であるのみならず、その認知や理解についても未だ十分とはいえないことから、当事者の生きづらさや孤立、精神的なしんどさに繋がりやすいため、丁寧な対応が必要とされるとともに、相談・支援に当たる者の間でも、相談ケースの共有と対応の蓄積が求められる。

■連携が想定される資源・利用が想定されるサービス等

- ・ 大阪府パートナーシップ宣誓証明制度
- ・ 大阪府内の各自治体を実施するパートナーシップ宣誓証明制度
- ・ 性的マイノリティの課題に取り組む当事者団体・支援団体
- ・ 市町村の人権担当部署
- ・ 市町村の男女共同参画担当部署
- ・ 市町村の公営住宅担当部署
- ・ 市町村人権協会
- ・ 隣保館、人権文化センター